

2. 全体的調査概要

(1) 調査の目的

自然環境に関する施策の方向性を検討し、今後の環境行政に反映するために、自然環境の現況特性を明らかにすることを目的に行いました。

(2) 調査対象及び地域

①調査対象分野

自然環境調査の調査対象分野は、地形・地質、植生、植物、ほ乳類、鳥類、爬虫類・両生類、昆虫類、水生動物の 8 分野とし、全体的な総括として生態系的なとりまとめを行いました。

②調査地域等

宗像市全域が調査対象です。ただし、調査期間が約 1 カ年と限られた期間であったことから、各調査委員の判断で地域を絞り込んだうえで調査を実施しました。

具体的には、地形・水系、土地利用等の配置のバランスを考慮して 16 地域の重点調査地域を選定し、全分野とも現地調査を実施するほか、必要に応じて各分野独自の調査点を設定し、現地調査を実施しています。各調査地点の選定の視点と概要を以下に示します。

なお、交通手段確保の難しい沖ノ島については、春季調査(平成 17 年 4 月 29 日)、夏季調査(平成 17 年 7 月 29 日～30 日)の 2 回の合同調査を行いました。

a. 重点調査地域

重点調査地域の抽出にあたっては、最終的に点や範囲である調査結果を市域のその他類似環境に推し広げる必要から、代表点となる典型的な地域を抽出することとしました。

基盤となる環境は、植生が地形、地質、気象等の総体をよく反映していると考え、植生の種類、配置状況に着目して選定しました。ただし、各項目共通地域として選定するため、比較的自然性の高い地域を選定するとともに、複数ある場合はできるだけ、保護のための法的規制(公園区域等)がなく、近い将来開発圧がかかること考えられる地域を優先しています。

このような観点から、以下の 16 地点を重点調査地域として選定しました。なお、植生については、当該地域の自然環境を推測する上で重要な要素であることから、重点調査地域を含む、関連性の高い範囲を調査対象範囲(植生図作成範囲)として設定し、調査を行っています。

表1-4 重点調査地域の概要

NO.	地点名	代表的な環境特性・位置づけ	H5, 6年度調査との関係	備 考
①	城山	山地の自然林	哺乳類、鳥類、昆虫類調査地点	特定植物群落
②	武丸周辺台地	里山 (権現山から連なる)	鳥類調査地点	
③	名残の谷地田	谷地田 (住宅により後背山地より切り離された)	鳥類調査地点	
④	許斐山	山地の樹林地 (許斐山から連なり上流域に溜池を有する)	哺乳類、鳥類、昆虫類調査地点	
⑤	釣川中流(上)	平地の水田 (丘陵地の迫る比較的狭い水田地域)	鳥類、水生動物調査地点	
⑥	多礼貯水池周辺	丘陵地の水辺 (規模の大きな開放水域を有する樹林地)	鳥類調査地点	
⑦	孔大寺山	山地の自然林	哺乳類調査地点	特定植物群落
⑧	釣川中流(下)	平地の水田 (河道に水生植物群落（中洲）を有する水田地域)		
⑨	樽見川上流	里山 (孔大寺山、湯川山より連なる)		
⑩	さつき松原	海岸（砂浜）植生、海岸クロツ林		特定植物群落
⑪	釣川下流	干潮域の河川及び周辺環境		
⑫	遠見山周辺	離島の自然林		
⑬	御嶽周辺	山地の樹林地		
⑭	大島北西部	海岸を含む環境		
⑮	沖ノ島	離島の自然林		特定植物群落 天然記念物
⑯	草崎半島	暖流の影響の強い海岸樹林		

b. 各分野独自の調査点

重点調査地域では捕捉しきれない、データの収集を目的とします。

局所的に生育する植物や、水系に依存している魚類や両生類、鳥類の渡り・繁殖の情報など、各分野独自で必要と考えられる項目の調査点を選定して調査を行っています。

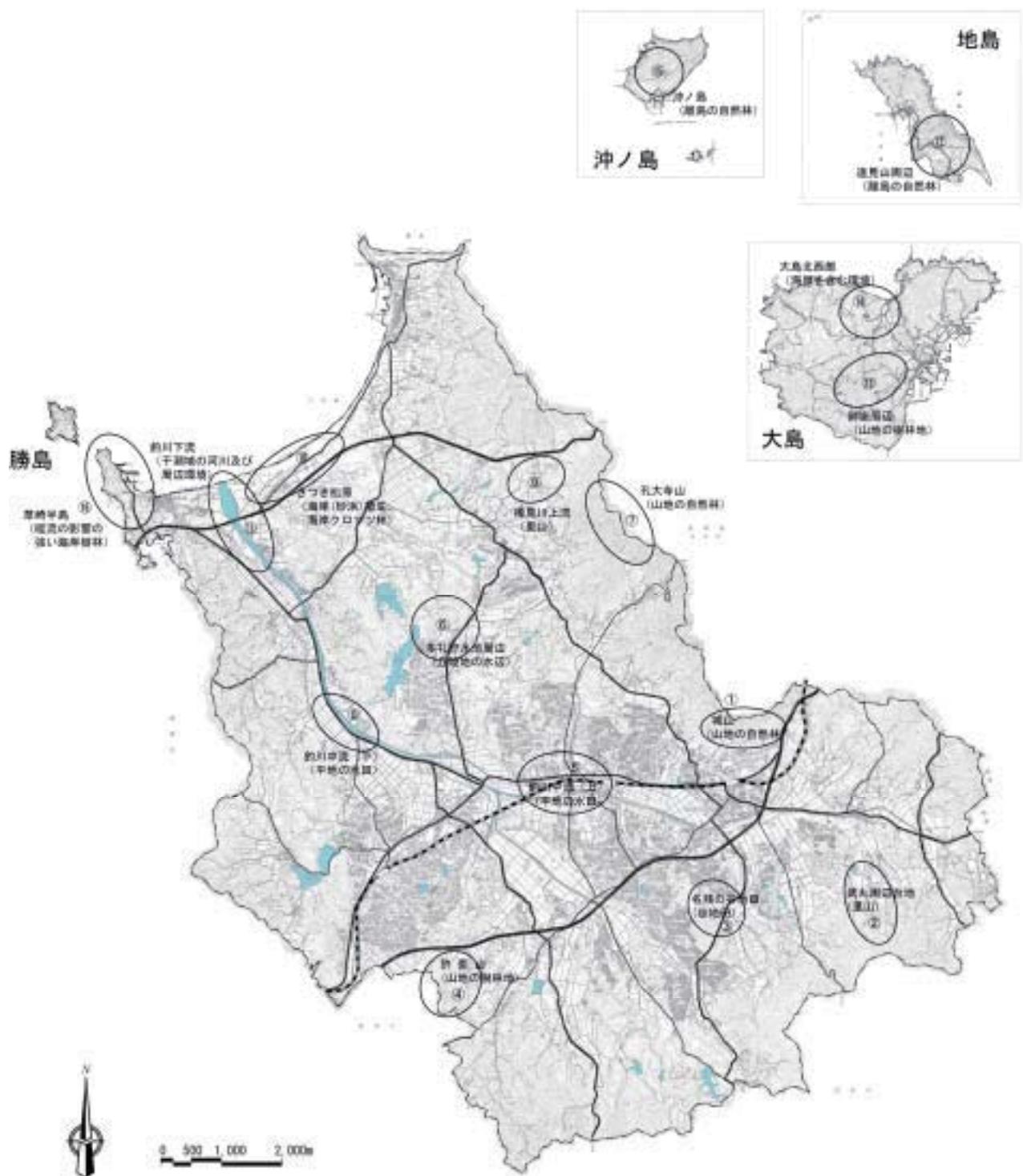
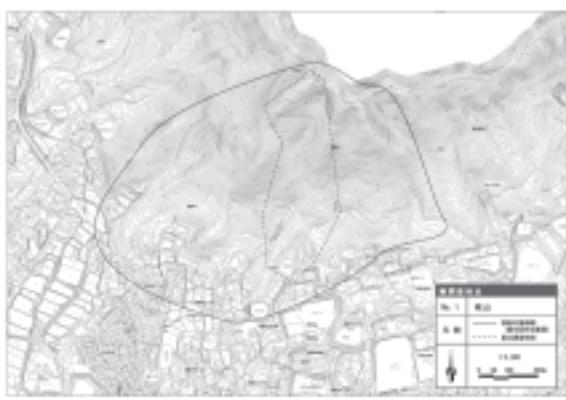


図 1-7 重点調査地域位置図



①城山



②武丸周辺台地



③名残の谷地田



④許斐山



⑤釣川中流（上）



⑥多礼貯水池周辺



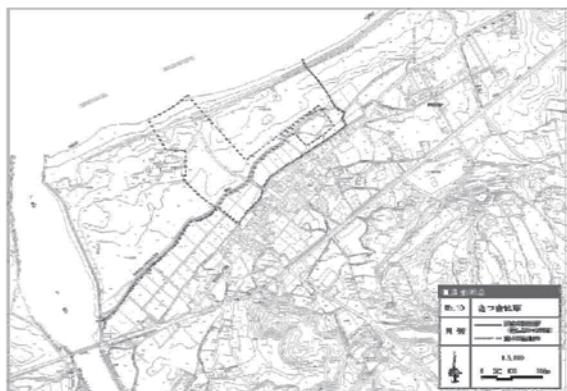
⑦孔大寺山



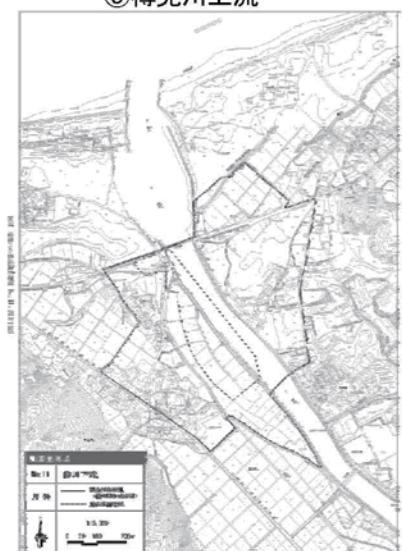
⑧釣川中流（下）



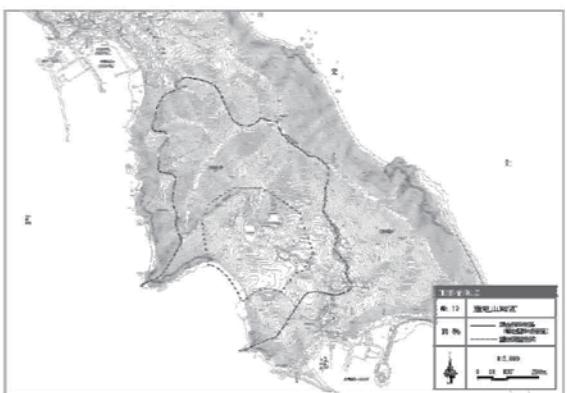
⑨樽見川上流



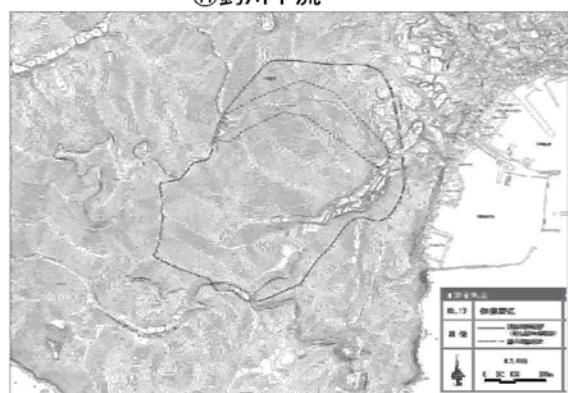
⑩さつき松原



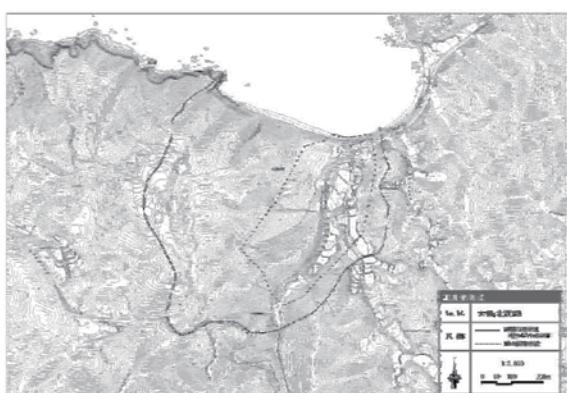
⑪釣川下流



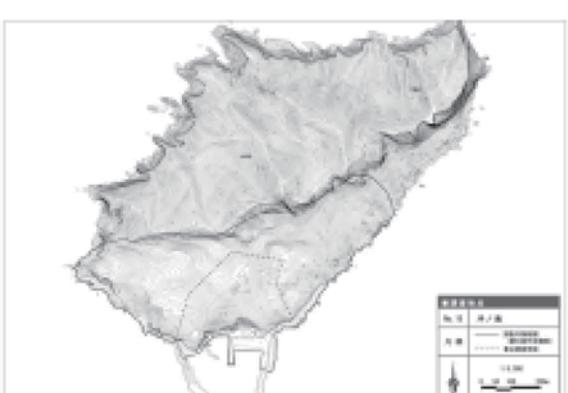
⑫遠見山周辺



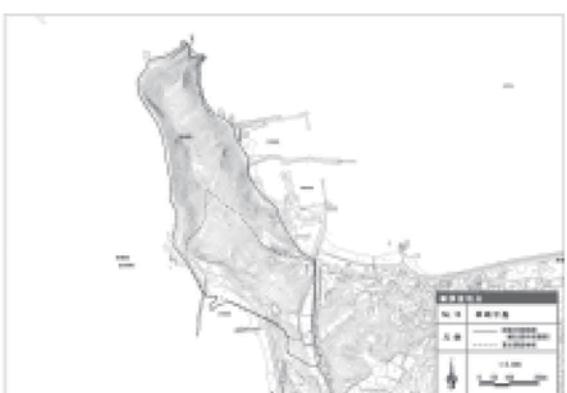
⑬御嶽周辺



⑭大島北西部



⑮沖ノ島



⑯草崎半島

(3) 調査期間

調査実施期間は、調査準備から結果のとりまとめまでを含めて、平成 17 年 12 月～平成 19 年 3 月までに行いました。そのうち、現地調査は平成 18 年 1 月～12 月の約 1 年間で行っています。

(4) 調査者と調査体制

調査は、委員（地元有識者等 各分野 1 名）及び調査や作業を補佐する協力者（各分野 1 ～ 3 名）、さらにある程度の知識・経験を有する市民の協力者（各分野 2 ～ 5 名）によりなる「宗像市自然環境調査研究会会員」により行いました。

また調査・とりまとめについては、基本的に分野ごとの委員が独自に計画を立て実施しますが、調査方法や価値評価、情報交換を行う場所として全分野の委員による「宗像市自然環境調査研究会」を設置しました。この会議は表 1-5 に示すとおり、計 6 回行いました。なお、第 6 回の会合は宗像市全環境調査研究会会員による合同発表会を行っています。

表 1-5 「宗像市自然環境調査研究会」の開催状況と主な検討項目

検討会	開催日時	会場	主な検討項目
第 1 回	平成 17 年 12 月 17 日 14：00～16：00	宗像市役所 302 会議室	・自然環境調査の概要について
第 2 回	平成 18 年 1 月 28 日 13：30～15：30	宗像市役所 302 会議室	・分野別調査計画
第 3 回	平成 18 年 8 月 19 日 9：30～11：00	宗像市役所 201 会議室	・動物分布調査結果の報告 ・調査の進捗状況について
第 4 回	平成 18 年 12 月 16 日 15：00～17：00	宗像市役所 201 会議室	・調査結果の報告
第 5 回	平成 19 年 2 月 17 日 10：00～12：00	宗像市役所 201 会議室	
第 6 回	平成 19 年 4 月 14 日 15：00～17：00	福岡教育大学 自然科学棟 2 階 207 号室 (理科大教室)	調査関係者全員による合同発表会

(5) 市民等からの情報収集

調査については、既存資料調査、現地調査、聞き取り調査を基本として、各委員の判断により適宜取捨選択して行っていますが、これら調査を補うものとして、市民や市職員から情報を得ることを目的とした調査を事務局主体で行いました。これらの調査内容を以下に示します。また、調査結果は第2章以降の各分野のとりまとめに反映されています。

①サンプル（死体）収集

a. 目的

現地調査ではなかなか見出しにくい、ほ乳類の分布状況を補完するための調査です。礫死体を調査することにより、足跡や糞のような動物の生息痕だけでなく動物そのものを確認することができます。

b. 方法

宗像市の資源廃棄物課が管理する公共の場所（道路、公園など）で死んでいた動物の収集記録をもとにデータの整理を行いました。

収集記録には市民などからの通報を受けて死体の収集を行った記録（ゼンリンの地図による位置情報あり）と収集業者が家庭ゴミの収集ルートで発見して収集を行った記録（大字等の名称のみで位置図なし）の2種類があり、それぞれの記録から犬、猫以外の情報を抽出し、確認地点図、確認した概要の一覧表を作成しています。

なお、資料は平成12年度から16年度までの過去5年間の資料を用いています。

②動物分布調査

a. 目的

現地調査では点としてしか記録されない動物の分布状況を、動物に詳しい市内有識者の目撃情報等によって分布範囲に広げていくための調査です。確認位置を地図上に記入してもらうだけでなく、種ごとに分布の広がり、個体数の増減などの傾向についての情報も得られるように調整しています。

b. 方法

<調査対象者>

調査対象者は市内に在住する動植物に詳しい有識者とし、以下に示す方々に調査票配布を行いました。調査票配布数は36通で回収数は22通（回収率は61.1%）でした。

●自然環境調査研究会	7通
●福岡教育大学等関係者	6通
●理科教諭、市民及び市民団体	5通
●漁協	5通
●市職員（大島）	1通
●獵友会	12通
合計	36通

＜調査方法＞

調査対象種を分野ごとに設定し（表1-7参照）、それぞれの種の5年以内の目撃情報を地図上に記入（分類群ごとに1/2万縮尺の地図を使用）してもらいました。また、対象種ごとの過去5年間の分布、生息数の推移を尋ねる調査票を作成し、記入をお願いしました。

表1-7 アンケート調査対象種

分類	種名
ほ乳類	タヌキ、イタチ類、テン、アナグマ、ニホンジカ、イノシシ、ノウサギ、コウベモグラ、カヤネズミ、アブラコウモリ、ニホンザル
鳥類	ツバメの巣、カササギ、フクロウ、アオバズク、ヤマドリ、キジ
両生・爬虫類	アカハライモリ、ウシガエル（食用ガエル）、ニホンヤモリ（壁チョロ）
昆虫類	ハンミョウ、マイマイカブリ、カブトムシ、タマムシ、シロスジカミキリ、シロスジコガネ
水生動物	メダカ、ニッポンバラタナゴ、ドジョウ（マドジョウ）、ブルーギル、オオクチバス、アメリカザリガニ、ジャンボタニシ、ミズカマキリ、タイコウチ、コオニヤンマ、マシジミ、ヘビトンボ、ウズムシ（プラナリア）

＜調査期間＞

平成18年6月12日～26日を回答期間とし、（獵友会については6月28日に説明会を行い、同日から7月5日までを回答期間としました。）8月8日までに回収した調査票の情報をもとに集計を行っています。